

## 1. 男女共同参画推進本部の取り組みがテレビ放映されました



東京学芸大学が東京都から「東京都女性活躍推進大賞」を受賞したことにより、本学の男女共同参画推進のための取組みについて、テレビ朝日より取材を受けました。

林家さく姫さんが来校し、「学芸の森保育園」、「育児・介護・看護等支援補助員制度」「女性の大学院生のための学術論文投稿支援制度」等が紹介されました。6月4日(木) 14:00～14:04 テレビ朝日の「東京サイト」という番組です。放映時間はとても短かったですが、本学の女性教員比率が国立大学86大学中5位であることも宣伝しておきました。

## 2. 2014年度男女共同参画推進本部の取組み

### 新規事業

#### ■ 男女共同参画支援室の移動

男女共同参画支援室は移動により、図書を閲覧できたり、学生サポーターが勉強会を開ける場所ができました。男女共同参画推進本部の取組みについてお尋ねの際は、お気軽にお越し下さい。

#### ■ 相談サービス・メンター制度の利用者拡大

相談サービス・メンター制度の利用対象を現行の大学教員・職員・学生から、附属学校教職員へも拡げることを目的とし、春休み期間に制度の実施を試みました。ご意見、ご要望等ありましたら男女共同参画支援室までお寄せ下さい。

## 継続事業

### ■ 開催企画

- ◆ フォーラム
  - 「“女性研究者研究活動支援事業”成果報告・平成25年度OPGE助成事業報告」(第17回)
  - 「ハンセン病とマイノリティー日本社会の縮図を見る」(第18回)
- ◆ 教育実践研究推進本部共催「科研費“研究計画調書”作成相談会」
- ◆ オープンキャンパス特別企画「理系女子(リケジョ)大歓迎！身の回りの科学から明日を拓こう2014！」
- ◆ 学芸カフェテリア共催講座「女性研究者へのキャリアパス」
- ◆ 教職員交流会
  - 「家事場のパパデカラ！家事の分担どうしてる？」
  - 「2人・3人・4人…きょうだいのいる生活」
  - 「ワークライフバランスの実現にむけてー男女共同参画推進制度の活用」
  - 「ワークライフバランスの実現にむけてー介護を迎えるにあたっての準備」

### ■ 支援制度

- ◆ 育児・介護支援研究補助員制度
- ◆ 女性の大学院生のための学術論文投稿支援制度
- ◆ 相談サービス・メンター制度
- ◆ メンター制度を利用した「科研費研究計画調書添削・助言」制度

### ■ 授業運営・勉強会

- ◆ 授業
  - 学芸フロンティア科目C：男女共に、幅広い知識や見識を持った教育者を育てることを目指し、身近な科学についてわかりやすく講義することにより、苦手意識をもたれやすい自然科学周辺分野への新たな見方を持つことを目的としています。秋学期計15回。
  - 学芸フロンティア科目H：ジェンダーやセクシュアリティについて学ぶことを通し、一人一人が自分や他者を大切にすることのできる社会について、ダイバーシティ(多様性)の観点を視野に入れながら考えることにより、感度の高い人材を育てることを目標としています。秋学期計15回。
- ◆ 附属学校初任者研修男女共同参画ワークショップ
- ◆ 男女共同参画支援室学生サポーター勉強会 7回/年

### ■ 意識啓発・広報

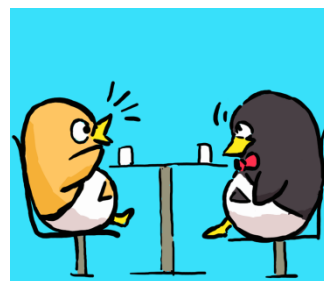
- ◆ ニュースレター「OPGE通信」発行 3回/年
- ◆ 男女共同参画推進本部・男女共同参画支援室ホームページ運営

## 3. 今年度の東京学芸大学男女共同参画支援室の紹介

今年度は、6月より新任の方も加わり、3名のメンバーで構成されます。お気軽にご相談下さい。

- 桑原美希(事務補佐員)
- 塚田昭子(事務補佐員)
- 望月雅和

本年6月からコーディネーター／特命講師として着任した望月雅和と申します。本支援室では、「両立支援」「意識啓発」「裾野拡大」という広い視野から、活動の理念が示されており、コーディネートに関われることを嬉しく思っております。とりわけ、ライブイベントの支援や相談のためにも穏やかに集える場とし、歴史ある本学に相応しい先進的な学習の場の提供、内外の裾野拡大を願っております。どうかよろしく願いいたします。



## 4. 第19回男女共同参画フォーラムのお知らせ

2015年7月1日に、下記のテーマで男女共同参画フォーラムを開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

### 「セクシュアルマイノリティ／私たち一学びのなかのダイバーシティ」

セクシュアルマイノリティで“ある人”と“ない人”。本来このように画然と割り切れるものではないだろう。だからこそ私たちは、他人事のようにふるまうのではなく、ともに関わり合い、影響し影響され、そのなかで自分たち自身が変わっていきけるのではないか。それができないことの責めは、マジョリティの側にあるにちがいない。今回のフォーラムでは、ダイバーシティの観点から男女共同参画推進の取り組みを見直す一環として、セクシュアルマイノリティの諸問題に焦点をあてる。

#### プログラム

1. 良香織:「学校教育におけるセクシュアルマイノリティ」
2. イトー・ターリ:「セクシュアルマイノリティーをパフォーマンスする」
3. ゲストと学生との座談会

#### 日時・場所

7月1日(水) 午後2:30～5:40、講義棟C401教室

## 5. 「育児・介護・看護等支援補助員」制度のご案内

従来研究者対象であった本制度ですが、平成27年度より本学の全教職員を対象とする支援制度に変わりました。講座、センター、附属学校、課(室)において、出産・育児、介護および介護等と職務との両立を支援するために、支援補助員を雇用する制度です。支援補助員の業務は、教育・研究活動の補助、事務の補助となります。半期ごとに、40時間まで(1日6時間以内、週30時間以内)雇用することが可能です。

後期(10月1日～3月31日)の応募締切が8月31日(月)となっています。どうぞご活用ください(詳しくは男女共同参画推進本部のHP参照)。

## 6. 平成27年度「女性の大学院生のための学術論文投稿支援制度」のご案内

東京学芸大学男女共同参画推進本部では、本年度も、女性研究者の育成に向けた取り組みの一環として、本学の大学院に在籍する女性が学術論文を投稿・掲載する際に要する経費の一部を補助する制度を実施します。

自らが筆頭者である論文が査読付きの学術誌に掲載されることが決定し、平成27年4月1日から平成28年3月23日までの期間にその論文の投稿・掲載に関する費用が生ずる場合が支援の対象となります。本制度の利用をご希望の方は、本文末のURLで申請要項をご確認の上、必要な書類を平成28年1月14日から2月16日までの間に東京学芸大学男女共同参画支援室にご提出ください(<http://www.u-gakugei.ac.jp/~danjo/m2/sm09.html>)。

## 7. コラム

### 母親の介護について

私には、昭和7年生まれ満82歳の母親がいます。

現在、母親とは2人で生活していますが、母は平成15年及び平成18年の両足人工関節手術により、身体障害者程度4級の認定を受けています。また、平成25年12月、ベッドから転落した際に右肩脱臼及び骨折をし、同時期に軽度のアルツハイマー型痴呆症が認められたため、市役所から要介護2の認定も受けました。審査が厳しくなったので、本年からは要介護1に変更されています。

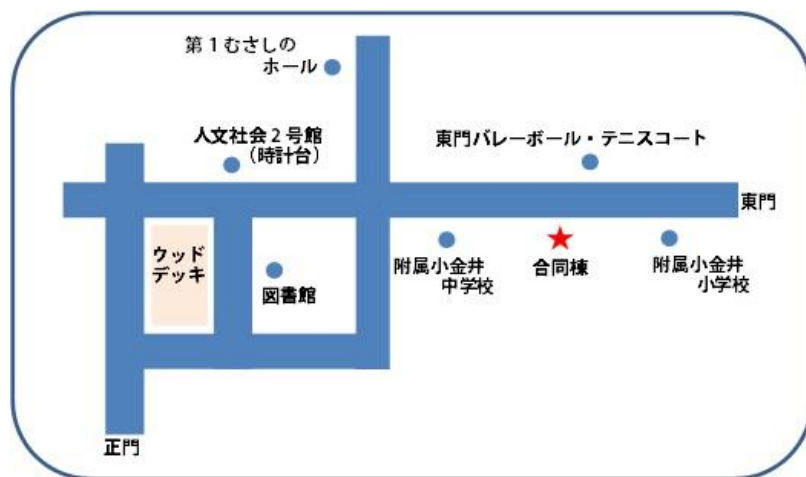
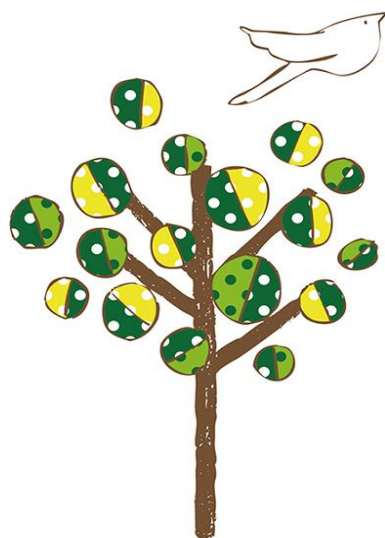
アルツハイマー型痴呆症は誰でも罹る可能性のある病気ですが、まさか自分の母親がなるとは想像もできませんでした。右肩を脱臼した際には、救急車で運ばれた病院からアルツハイマーを理由に完全看護での対応を断られてしまいました。夜中に電話で呼び出され、当日は母親のベッド脇で仮眠をとり、翌日に連れて帰りました。施術までの1週間は家で看病することになったため、職場には迷惑をかけてしまいましたが、介護休暇を取得させていただきました。

昭和一桁生まれで、年の離れた父と15年前に死別、家庭のことは自分一人でやってきたと自負する母ですが、アルツハイマーを患ってからは、自分で整理した場所を忘れ、それを他人のせいにするので、私も怒ってしまったことが大分ありました。しかし、心療内科の先生の指導で、それが全く逆効果であること、加えて本人は病気の認識もないため、あまり刺激を与えず、平常心で対応していくことを学びました。母との生活は大変ではありますが、歳とは逆に幼い時に帰っているような感じがしますので、可愛い面を引き出して、笑ってあげるようにしてあげたいです。

現在は病状が安定していますので、デイケア等の市の制度を利用しながら、私も自分の時間を大事にしながら一緒に生活して行きたいと考えています。

東京学芸大学 事務職員

男女共同参画推進本部・支援室は  
合同棟の2階です。



## 東京学芸大学男女共同参画推進本部・支援室

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1(合同棟2階)

TEL: 042-329-7894 E-mail: shien1@u-gakugei.ac.jp

URL: <http://www.u-gakugei.ac.jp/~danjo/>